

2月定例会開会 新年度予算は



2013年2月24日
-41号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
県議会共産党執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

2月20日、新年度予算審議などを行う県議会2月定例会が3月19日までの会期で開会されました。

一定の県民要望を反映 最上小国川ダム事業費など課題も

開会に先立ち2月15日には、議会に対し2013年度予算の内示が行われました。

予算総額は、607億3100万円で、2012年比1.2%減となっております。

依然として厳しい状況ですが、2012年補正で国補正に伴う330億円余りが計上されており、合わせてよく見ていく必要があります。

日本共産党としての予算要望や議会審議、団体要望などで一定の県民要望が反映されたものがあります。

子どもの医療費助成制度入院については現行小6を中3にまで対象を拡大、看護師確保

のため看護教員養成研修の実施や県立保健医療大学の定員増の準備経費の計上、学童保育の障がい児受入支援事業予算化、介護職員サポーター事業費予算化、私学助成では私立高校の一般補助金の補助率48.5%から50%への引き上げと授業料軽減事業における低所得世帯の一部補助単価引き上げ、住宅リフォーム助成事業の継続、いじめのない学校づくり支援事業費計上など、その他、特別支援学級の少人数学級編成や引き続き再生可能エネルギー導入促進に向けての関

係予算、農林水産業創意思工夫プロジェクト支援事業費などが盛り込まれています。

一方で最上小国川ダム建設事業やフル規格新幹線推進を前提にした事業費などが計上されています。また、国補正による経済対策に対応した公共事業費がどう展開されるかについても注視していく必要があると考えています。婚儀会は、一般質問などの機会はありますが、重要な予算議会です。委員会質疑を通じて県民のみなさんの声を代弁していきたいと思えます。

2月13日、全国福祉保育労働組合山形地方本部が県に各福祉分野の要望・懇談を行い、私も同席しました。

福祉保育労組が

2013年福祉要望

共通していたのは、保育や介護の現場でぎりぎりで働いていること、人員配置の充実を求める切実な声でした。

また、子ども子育て新システムで「保育の質が低下しないのか」

との不安や児童養護施設での「高校生への支援をもっと充実してほしい」など現場から切実な実態が出されました。

県の担当者からは、「実態をお聞きして認識したこともある」「国にも伝えるべきことも伝えるべきこと

は伝えたい」などの発言がありました。



2月17日に開催された日本共産党「新春のつどい」

ゆり子の視点

家計を あつためてこそ

16日、2013年春闘学習講演会に参加しました。

題して「賃上げこそデフレ脱却のちから」、ほんとにそのとおりです。大企業は巨額の内部留保を積み上げたのに労働者の賃金は10年以上下がりが続いている。世界でも異常な国が日本です。12日、日本共産党の笠井亮議員が予算委員会での問題と追及、安倍首相がこれを受け、経団連会長「業績が改善している企業の報酬引き上げをぜひお願いしたい」と要請しました。

安倍首相はインフレ目標ではなく、賃上げ目標を持つべきだと私は思います。消費税増税などもつてのほかです。国民所得を挙げるのが不況打開の道です。日本共産党は2月14日、働くみなさんへのアピール「賃上げと安定した雇用の拡大で暮らした経済を立て直そう」を発表しました。おおいに訴えたい。